



play.fiba3x3

JAPAN TOUR 2020 EXTREME Limited



JAPAN TOUR

Coronavirus
(COVID-19)
感染予防対策

【目次】

P3	はじめに、ガイドライン策定の基本方針
P4～7	健康管理・感染予防について
P8～9	移動・宿泊について
P10	開催時における感染予防対策について
P11	選手およびチームスタッフのエントリーフロー
P12	当日受付フロー
P13	エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（事前留意内容）
P14	エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（当日留意内容）
P15	運営スタッフの皆様へ
P16	チーム・選手チェックリスト
P17	健康チェックフォーム

【はじめに】

本感染予防対策マニュアルは、JBA「バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」に基づき、JAPAN TOUR 2020を安全に開催するためのものである。

なお、本ガイドラインは現段階で得られている知見等に基づき作成しており、今後、状況に応じて、本ガイドラインについても見直すことがあり得ることにご留意ください。

【ガイドライン策定の基本方針】

本ガイドラインの策定にあたっては、以下の項目を基本方針とする。

1) 安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等が安全に活動できる環境を提供します。

2) 「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

Before コロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計します。

3) FIBA再開ガイドライン

FIBA（国際バスケットボール連盟）より再開におけるガイドラインが公開されており、バスケットボール競技の特性を考慮しながら作成します。

4) 不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはせず、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷を許容しません。

【健康管理・感染予防について】

1) 健康管理・記録

選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフの皆さまは大会2週間前から必ず毎日の健康状態チェックを行い、体温記録用紙、健康チェックシートに記入する。

また、万が一に備えて、毎日の行動記録メモを残し、コロナウイルス感染対策責任者を1名配置し、管理をすること。

①体温測定、体調チェック

- ・体温測定：選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフは必ず毎日実施すること。

【統一事項】

- ・毎日同じ条件、同じ測り方で実施すること。
- ・37.5℃以上の発熱が2日間続いた場合は、自宅待機とし即座にコロナウイルス感染対策責任者へ報告すること。
- ・平熱には個人差があるため平熱が低い方はプラス1.5度を基準とする。
- ・その他、体調の自己申告：(例)せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常や発熱症状が無い場合でも、上記症状が続く場合はコロナウイルス感染対策責任者へ報告を行うこと。
- ・体調不良者はコロナウイルス感染対策責任者へ連絡し、コロナウイルス感染対策責任者はJBAに報告すること。

②行動記録

選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフに感染確定、陽性判定、濃厚接触者が出たときに備え、毎日の行動記録を残しておくこと。

行動記録の中でクラスターの発生・感染者・濃厚接触者が発生した場合には、症状等がない場合でも、自身の行動記録の過去2週間内に「自身が行った場所でのクラスター発生」、「対面した人がコロナウイルスに感染した」、「対面した人が濃厚接触者と判断された」場合は、即座にコロナウイルス感染対策責任者へ報告し、コロナウイルス感染対策責任者は即座にJBAへ報告すること。

③新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストール

大会当日(または設営日)までに、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)をインストールを必ず行うこと。

(厚生労働省が提供するスマートフォン向けCOVID-19アプリをインストールし利用していただきます。陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができ、利用が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。)



【健康管理・感染予防について】

2) 感染対策(選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフの皆さま) 「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - ☐ 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒 ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



密集回避

密接回避

密閉回避

換気

咳エチケット

手洗い

【健康管理・感染予防について】**3) 感染対策（選手、チームスタッフ）**

感染のリスクを最小限にするために、新型コロナウイルスの主な感染経路が飛沫感染と接触感染であることを念頭に、感染防止の3つの基本である、十分な距離の確保、マスクの着用、そして手洗い・手指消毒を含めた、以下の感染対策を実施する。

① ソーシャル・ディスタンス（感染拡大を防ぐために物理的な距離をとること）を確保

- ・ 人と人の間の距離を2メートル以上とり、ソーシャル・ディスタンスを保つようにする。
- ・ 施設の広さにより、2メートル以上のソーシャル・ディスタンスが確保できない場合は、同時に活動する参加人数を制限する。あるいは、より広い施設や屋外を利用する。
- ・ 活動中、ベンチでも、このソーシャル・ディスタンスを確保する。
テープやペイントで印をつけることで、ソーシャル・ディスタンスを保つことがある。

② マスクの使用

- ・ 試合中、マスク着用を希望する選手については着用を許可する。ただし、熱放散が妨げられることから、熱中症のリスクを考慮して運動強度を落とし、且つスポーツ用のマスクを着用すること。（選手以外は、3層式サージカルマスクを推奨）
- ・ 顔全体をカバーするフェイスシールド（あるいはヘルメットのようなもの）については、着用している個人あるいはチームメンバー、対戦相手に意図しない怪我のリスクを増加させるため、競技中の着用は許可しない。
- ・ チームスタッフ、運営スタッフは常にマスクまたはフェイスシールドを着用する。
- ・ マスクを着用していない場合は、周囲との距離を十分保ち、不必要な発声や会話を控える。
- ・ 息のあがるような高い負荷の運動中はマスクを使用せず、ソーシャル・ディスタンスを意識的に確保する。また、運動中以外はマスクを必ず着用する。
- ・ ホイッスル代わりに、エアホーンやアラーム付きのタイマーシステムのような人工的に音を発生する機器を用いて対応することもある。

③ 手洗いや手指消毒を行う

- ・ 施設を利用する前後や、多くの人が頻繁に触る物に触れた後は、石鹸と水で30秒以上手を洗う、あるいは手指消毒（70%以上のアルコール消毒液）を行う。
- ・ 手指消毒液を人が通りやすいところに設置することで、利用しやすくする。
- ・ 定期的に手指消毒を行う。（例：水分補給の時）
- ・ 掲示物等で手洗いや手指消毒を促す。

④ 換気を行う

- ・ 窓を開けたり、換気扇を利用したりして、常に、あるいは定期的に換気を行う。

⑤ 備品などの共有をしない

- ・ 選手間での備品（例：ビブス、タオル）の共有はしない。
- ・ 選手は各自のウォーターボトル、あるいはペットボトルを使用し共有しない。
- ・ ジャグタンクやクーラー等を共有しない。

【健康管理・感染予防について】

⑥施設の管理、清掃、消毒を行う

- ・施設を開放する前に備品を含めた施設の安全確認を行う。
- ・清掃スケジュールを作成し、実施する。
- ・清掃を行う際は、マスクや手袋を着用し、清掃前後は石鹸と水で 30 秒以上手を洗う、あるいは手指消毒を行う。
- ・鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ごみを回収する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・人が多く触る場所や多く通る箇所の清掃・消毒を利用の前後に実施する。
- ・運動器具、用具は定期的に消毒する。
- ・更衣室または待機スペースは、広さにゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける。

⑦他の感染予防

- ・顔に触れるのを避ける。
- ・くしゃみや咳をする際には、咳エチケットに注意する。(例：ティッシュ使用か、肘や手で覆う)

4) 感染または、感染の疑いがある場合の報告事項

①報告する事象

下記に当てはまる場合、該当者は自宅待機とした上でコロナウイルス感染対策責任者を通じ、JBAへ報告を行うこと。

- ・37.5℃以上の発熱が2日間続いた場合(平熱が低い方はプラス1.5度を基準とする)
- ・せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常が続いた場合。
- ・発熱が無くても「息苦しさ(呼吸困難)」「強いだるさ(倦怠感)」等の強い症状が発生した場合。
- ・大会で義務付ける検査以外でPCR検査を予定している。
- ・上記のPCR検査の結果が出た場合。
- ・濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい場合。

②報告時に網羅するべき内容

- ・症状が発生している当該者の役職や所属セクション。
- ・発生している症状と、発生期間。
- ・医療機関の受診状況や、チームドクターなどへの相談経過。
- ・選手やチームスタッフ、関係者との接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)
- ・関係者内での接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)

③選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフおよび家族も含めた関係者に疑い例が出た場合の対応

- ・該当者は症状が出た日から14日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録のヒアリング、症状を自覚したタイミングで報告/自宅待機を行う。
- ・該当者は速やかに専門家・連携医療機関への連絡する。
- ・各地域の専門家・連携医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し、濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理を行う。

④報告頂いた内容・相談内容の取り扱い

- ・専門家チーム、JBA内コロナ対応班だけが情報の閲覧を行う。
- ・関係者に共有する場合には、必要に応じて個人情報を取り除いたうえ、共有する。

【移動・宿泊について】

1) 都道府県をまたぐ移動について

緊急事態宣言が解除され都道府県をまたぐ移動が認められることが前提とする。
都道府県をまたぐ移動の制約が再び決定した場合は、JBAに相談のうえ、指示に従うこと。

2) 個人での移動について

- ・公共交通機関を利用しないことを推奨する。
- ・自家用車などで移動する場合も、乗り合わせを避け、個人でのアクセスを推奨する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。

3) タクシーでの移動について

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。

4) バスでの移動について

①バス使用時の留意点

- ・隣り合った座席は1席空ける。
- ・2時間以上などの長時間のバス移動の際には、個人単位でも予防対策を行う。

②チャーターバス利用の際の依頼事項

- ・事前の車内消毒
- ・運転手の体調管理。マスクや手袋の着用。

③その他注意事項

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。（1時間に3回の換気が推奨）
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。
- ・座席は隣同士での使用を避ける。（2席横並びの場合、どちらかの席を空ける）
- ・空調などを使用し、車内の空気の循環を良くする。
- ・サービスエリア等での休憩時もマスクの着用など感染予防対策を行う。

5) 新幹線での移動について

新幹線では車内に設置した空気調整や換気装置により6～8分程度で車内の空気を入れ替えています。

※参考：[JR 東日本「新幹線・在来線特急車両の車内空気循環について」](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

【移動・宿泊について】

6) 飛行機での移動について

航空機内の空気は常に機外から新しい空気を取り入れ、機内で循環され機外へ排出。
約3分程度で入れ替わります。また各航空会社で感染拡大防止の取り組みが行われています。

※参考：[新型コロナウイルスに関するJALグループの対応](#)

[ANAの取り組み](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

7) チームでの食事について

- ・選手の席は1.5~2mの距離をあけること。向かい合わせの配席は避けること。
※十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらすなどの対応を行うこと。
- ・食事は基本的に一人ずつ取り分けた状態で用意すること。
- ・食事中、宿泊施設の方は極力部屋にいないようにお願いすること。
※片付けはチームが退出したあとに行ってもらうこと。

8) ミーティングについて

- ・基本的にWeb会議などをメインにして、極力対面を避けるように心がけること。
- ・対面でのミーティングを行う場合は極力人数を絞り、常に社会的距離(できるだけ2m、最低1m)が取れる広い場所で行い、換気をこまめに行うこと。
- ・ミーティングを行う際は、出席者全員マスクを着用すること。

9) その他注意事項

- ・自室以外(食事の時以外)ではマスクを着用すること。
- ・エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにすること。
- ・控室の換気をこまめに行う。空気の乾燥によって、鼻、喉や気管の粘膜機能低下が起こりやすくなるため、控室内の状態は温度21度、湿度50~60%が推奨される。

【開催時における感染予防対策について】

◆対策内容

『会場面』

- ・入場口の数进行制限する。
- ・受付にサーモグラフィーの設置。
- ・会場内外各所にアルコール消毒液の設置。
- ・手洗いに後手手拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること)
- ・選手控室および更衣室、スタッフ控室はソーシャルディスタンスを図る。
- ・すべての導線は「one-way」とし往復ができないようにする。
- ・使用済みマスクおよび手袋専用のごみ箱の設置。

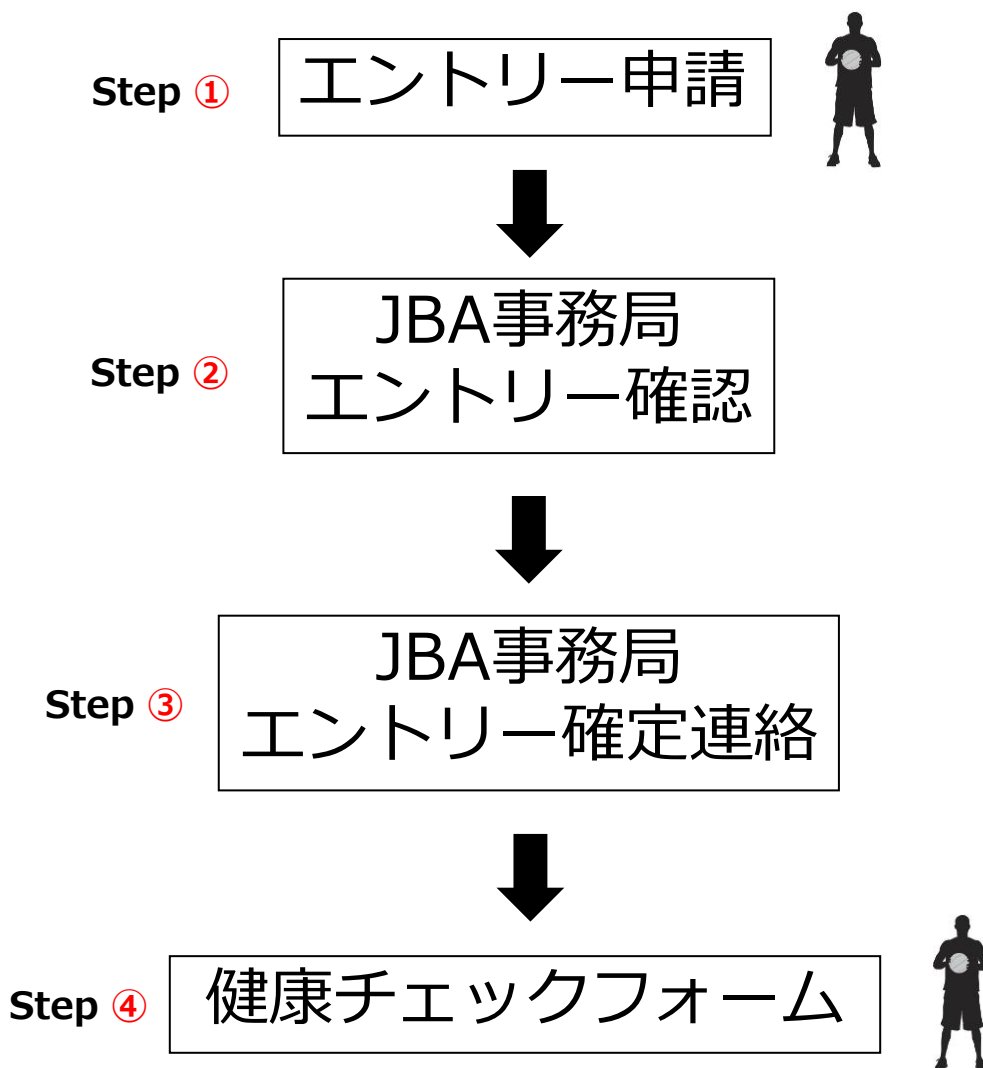
『競技面』

- ・会場内の密を避けるために、男女カテゴリー別で試合を実施。
- ・カテゴリー間の時間は、器具のアルコール消毒及び選手のバッチィングを避けるため、2時間の間をあける。
- ・選手、レフリー、スタッフ待機エリアはソーシャルディスタンスでの配置。
- ・テーブルオフィシャル及びMC&DJ卓へは飛沫防止シールド壁の設置。

『その他』

- ・選手および関係者、スタッフ全員のマスク着用徹底。
- ・選手および大会関係者全員の大会前事前検温及び当日の検温。
- ・会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・ゴミはビニール袋に入れ密閉して縛り、廃棄する。
- ・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

【選手およびチーム関係者エントリーフロー】

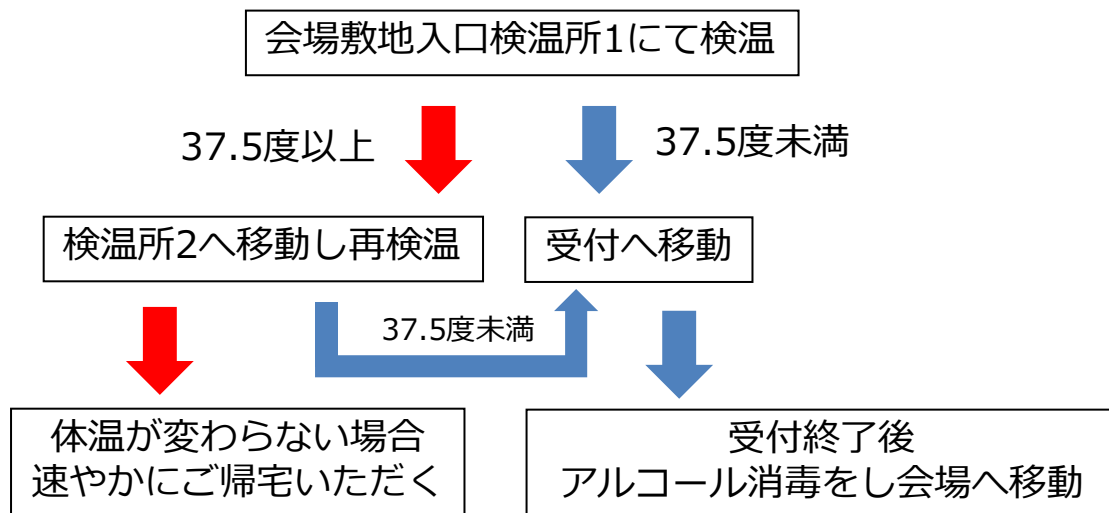


※大会14日前より検温を行い、毎日専用フォームにて報告。

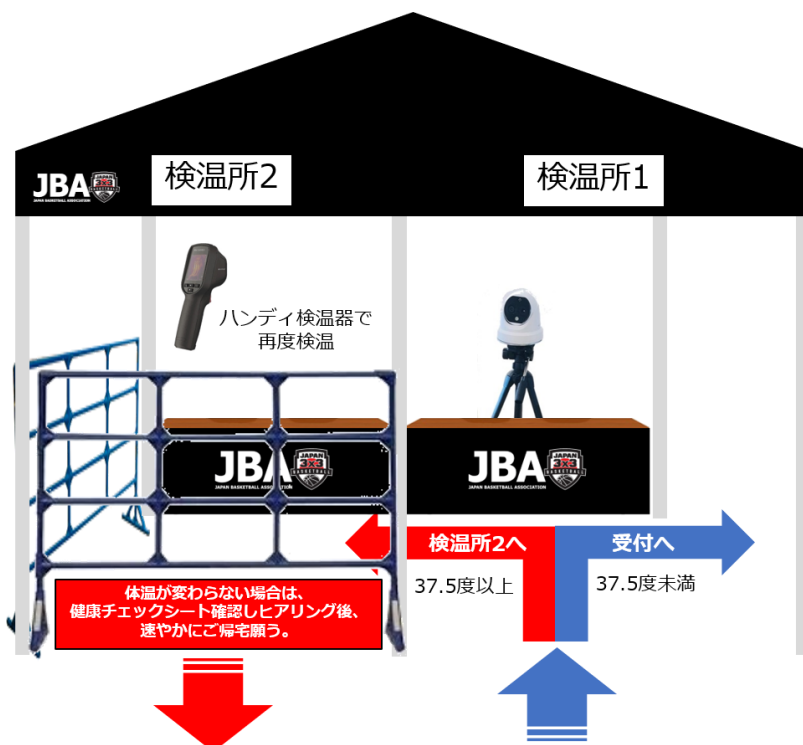
※大会4日前の検温および大会当日37.5度以上または平熱より+1.5度以上の発熱がある該当者はエントリーを取り消します。

※大会4日前の検温および大会当日発熱が確認された該当者のチームメンバーも濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくてもエントリーを取り消します。

【当日受付フロー】 ※チームスタッフ&選手共通



【検温所】



【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

事前留意内容

大会当日まで下記の留意内容を遵守ください。

なお、大会当日も会場入り口にて検温検査を行います。37.5度以上または平熱+1.5以上の発熱があった場合、エントリーを取り消し速やかにご帰宅いただきますので、予めご了承ください。その際、チームメンバー（関係者含む）も濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくても同様の対応をさせていただきます。

『日常生活』

- ・不要不急の外出は控える。
- ・外出時や屋内でも会話を行う際は、必ずマスクを着用する。
- ・まめに手洗い、手指消毒を行う。
- ・身体的距離の確保。（できるだけ2m。最低1m。）
- ・3密の回避。（密集・密接・密閉）
- ・毎日の体温測定、健康チェック。※健康チェックフォームでの報告が必須となります。

『練習』

(1) 十分な距離の確保

- ① 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（2mが目安）を空けること。（介助者や誘導者の必要な場合を除く）
- ② 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるためより一層距離を空ける必要があること。
- ③ マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

(2) 位置取り

- ① 走る・歩くにおいては、前の人呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

(3) その他

- ① 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- ② タオルおよび飲料の共用はしないこと。

【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

当日留意内容

大会当日は下記の留意内容を遵守すること。

- ・まめに手洗い、手指のアルコール消毒を行うこと。
(試合前中後、トイレ前後、ボールおよび物への接触後等)
- ・会場内外では、必ずマスクを着用すること。(試合中は含まない)
※ウォーミングアップ中は熱中症に十分気を付けること。
- ・待機時における身体的距離を確保すること。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・3密を回避すること。(密集・密接・密閉)
- ・タオルおよび飲料、サプリメント(プロテインバー・チャージ系ゼリー)の共用はしないこと。
- ・会場内での食事は禁止とする。
- ・チーム同士、審判との握手、ハイタッチは行わないこと。
- ・集合写真、円陣等密になることは行わないこと。
- ・水やスポーツドリンクは各選手専用のペットボトルを準備すること。
- ・クーラーやタンクの共有は行わないこと。
- ・ビブスの共有は行わないこと。
- ・記録のために共有する文房具等、共有して使用するものは消毒すること。
- ・車いすのハンドリムや触れる場所はよく拭き、清潔に保つようにすること。
 - * 塩素系の消毒液の使用は避け、アルコールもしくはエタノールで拭くこと。
 - * ゴム製品は雑巾で水拭きしてゴミを取り、乾いてから除菌スプレーや、シートで拭くこと。

【チーム・選手チェックリスト】

シーン	項目	チェック欄	備考
1 事前準備	(1) チーム内において感染対策責任者を定め、所属協会・連盟担当者の連絡先を把握する。		
	(2) 活動する上での注意事項を関わる全ての方と共有し理解してもらう。（不安がある場合は参加を見送る）		
	(3) チーム内の選手・スタッフの健康管理表を入手し、活動日まで健康チェックを行う（活動日2週間前までの検温と行動記録の確認を推奨します）		
	(4) 選手が未成年の場合は、保護者が活動内容を理解しており、参加を了承している。（了承しない場合は無理に参加させない。）		
2 往復の移動	(1) マスクを着用する。		
	(2) 往復の交通公共機関利用時にはラッシュ時や混んでいる車両を避ける。		
	(3) 窓を開ける等、換気がよくなる工夫をする。		
	(4) 切符を買うために使う指を限定し、その際に使用した指で顔や目を触らない。		
	(5) 電車・バス等公共の交通機関内において、常に他者と距離をとり、会話を控える。		
	(6) 目的地に到着後、特にすり革、手すりなどを触った手を洗い、消毒、うがいをする。		
	(7) 寄り道をせずに、できるだけ早く帰宅する。		
3 トレーニング・試合前	(1) 選手・指導者・スタッフはプレー時以外はマスクを着用する。		
	(2) 選手・指導者・スタッフは健康チェックシートをチームの感染対策責任者に提出する。		
	(3) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
	(4) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。		
	(5) 握手やハイタッチ等は行わない。		
	(6) 円陣は行わない。		
	(7) ミーティングの回数・時間を減らす、もしくは行わない。		
4 トレーニング・試合中	試合関係者のコミュニケーション、給水等		
	(1) 指導者・スタッフ、ベンチに座る選手はマスクを着用する。		
	(2) プレー以外の不要な接触を避ける（得点後の喜び、交代時の握手等）。		
	(3) コート上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮する。		
	(4) ベンチでの選手間の距離を保つ。		
	(5) 交代の選手は、アップ時の他の選手との距離にも注意を払う。		
	(6) 水・氷を溜めたクーラーボックスにボトルを漬けない。		
	(7) ボトルを他の選手と共有しない。		
	(8) タオル等、リネン、ピンス等を他の選手と共有しない。		
	(9) 屋内コートおよび3x3スポーツコート（屋外コート含む）ではコート用シューズのみの使用とする（屋外用シューズでコートに入らない）。		
	(10) テーブルオフィシャルを担当する者はマスクを着用する		
	ハーフタイム・交代・退場時、試合終了時の対応		
	(1) 更衣室に戻る前に消毒や手洗い、うがいをする。		
	(2) 選手交代後においても消毒や手洗い、うがいをする。		
	(3) 退席や退場の際等、審判員と会話することがあったとしてもその距離には十分に配慮する。		
	(4) 怪我をした選手を他の選手がむやみに接触しない。また、コート外に当該選手を移動させる際は、おんぶやだっこを避け、担架を活用する。仮に、おんぶ等をして当該選手を移動させた場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う。		
	(5) メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する。		
	(6) 試合後のチーム、審判員との挨拶、相手チームベンチへの挨拶は行わない。		
5 トレーニング・試合後	(1) 更衣室が狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。		
	(2) 着替えを素早く済ませ、更衣室から早く出る。		
	(3) シャワーの利用についてはローテーションを組んで交代で浴びる等の工夫をする。		
	(4) 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分するか、持ち返る。		
6 帰宅後の過ごし方	(1) 手洗いうがいを徹底する。		
	(2) バランスの良い食事をする。		
	(3) 検温と共に行動記録を書く。		
	(4) 早めに就寝し、十分な睡眠時間を確保する。		
7 事後対応	(1) チームの中から感染者が出た場合は、感染対策責任者に速やかにその旨伝える。		

【チーム・選手チェックリスト】

8 施設用具等の対応	手洗い場所		
	(1) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意すること		
	(2) 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること		
	(3) 手洗いに手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。）		
	(4) 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒用薬を用意すること		
	更衣室、休憩スペース		
	(1) 広さにはゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避けること（障がい者の介助を行う場合を除く）		
	(2) ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する等の措置を講じること		
	(3) 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること		
	(4) 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること		
	(5) スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする		
	洗面所		
	(1) トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること		
	(2) トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること		
	(3) 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意すること		
	(4) 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること		
	(5) 手洗いに手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（利用者にマイタオルの持参を求めても良い。）		
	スポーツ用具の管理		
	(1) 利用者にスポーツ用具を持参してもらうよう周知すること		
	(2) やむを得ず共用するスポーツ用具については、手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒すること		
	(3) スポーツ用具の貸出を行う場合は、貸出を行った利用者特定できる工夫をすること		
	(4) 貸出前後に消毒すること		
	観客の管理		
	(1) 施設に観客も入場させる場合には、観客同士が密な状態とならないよう、必要に応じ、あらかじめ観客席の数を減らすなどの対応をとること		
	(2) 大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合にマスクを着用すること等の留意事項を周知すること		
	運動・スポーツを行う施設的环境		
	(1) 換気設備を適切に運転することや、定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと		
	(2) 体育館の床をこまめに清掃すること		
	(3) 体育館等の施設においても、密な状態とならないようにすること		
	施設の入口		
	(1) 手指の消毒設備を設置すること		
	(2) 施設利用時の利用者が遵守すべき事項のチェックリストを掲示すること		
	ゴミの廃棄		
	(1) 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること		
	(2) マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸（ポンプ型の液体または泡石鹸）と流水で手を洗い、手指消毒すること		
	清掃・消毒		
	(1) 市販されている界面活性剤含有の洗浄剤や漂白剤を用いて清掃すること		
	(2) 通常の清掃後に、不特定多数が触れる環境表面を、始業前、終業後に拭拭消毒すること		
	その他		
	(1) 運動・スポーツの際の栄養補給等として飲食物を利用者に提供する際は、以下などに配慮して適切に行うこと		
	(2) 利用者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること		
	(3) スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップを提供すること。ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。		
	(4) 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること		

チーム感染対策責任者： _____

【健康チェックフォーム】

<https://pro.form-mailer.jp/fms/0902dbbf204754>

健康チェックフォーム(選手・チーム関係者用)

本健康チェックフォームは日本バスケットボール協会が開催する各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。

本健康チェックフォームに入力いただいた個人情報について、日本バスケットボール協会は、厳正なる管理のもとに保管し、選手およびチーム関係者の健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。

JAPAN TOUR 2020 EXTREME Limited 出場選手およびチームに帯同するスタッフ(マネージャー、トレーナーの2名まで)が出場ラウンドの14日前より毎日報告を行うこと。

大会4日前以内に37.5度以上の発熱があった場合、エントリーを取り消したします。

※大会4日前の快温および大会当日発熱が確認された該当者のチームメンバーも濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくてもエントリーを取り消します。

複数ラウンドにエントリーし、報告期間が重なる者は、1日に複数回の報告は不要とする。

氏名 **必須**

チーム名 **任意**

①各ラウンドの報告開始初回のみ必ず入力してください。
②複数ラウンドにエントリーし、各ラウンドに別チームにて出場を予定している場合は、本項目に複数チーム名の記入または備考欄に記載してください。

チーム内コロナ対策責任者 **任意**

各ラウンドの報告開始初回のみ必ず入力してください。

コロナ対策責任者連絡先 **任意**

各ラウンドの報告開始初回のみ必ず入力してください。

出場ラウンド **任意**

各ラウンドの報告開始初回のみ必ず入力してください。

カテゴリー **任意**

- ☐ 選手
- ☐ リザーブ選手
- ☐ マネージャー
- ☐ トレーナー

各ラウンドの報告開始初回のみ必ず入力してください。

生年月日 **任意**

初回のみ必ずご入力ください。

連絡先 **任意**

初回のみ必ずご入力ください。

メールアドレス **任意**

初回のみ必ずご入力ください。

住所 **任意**

郵便番号

都道府県

市区町村番地

マンション・ビル名

初回のみ必ずご入力ください。

体温 **必須**

数字のみでご入力ください。

例) 36.5

活動状態 **必須**

- ☐ チーム内メンバーで活動を行った。
- ☐ チーム外メンバーで活動を行った。

活動とは、練習・ウェイトトレーニング・食事など長時間接触していた活動

健康状態 **必須**

- ☐ ①平熱を超える発熱が無い。
- ☐ ②咳(せき)、のどの痛みなどの風症状が無い。
- ☐ ③だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)が無い。
- ☐ ④嗅覚や味覚の異常が無い。
- ☐ ⑤体が重く感じる、疲れやすいなど無い。
- ☐ ⑥新型コロナウイルス感染症陽性者とされるものとの濃厚接触がない。
- ☐ ⑦同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない。
- ☐ ⑧過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされる国、地域渡航または当該在住者との濃厚接触がない。

該当するものにチェックを入れてください。